

草の根技術協力（パートナー型）案件概要表

Ⅰ. 事業の概要	
1. 対象国名	ラオス人民民主共和国
2. 案件名	初等教育における少数民族児童の指導・学習環境改善事業
3. 事業の背景と必要性	ラオスは高い経済成長率を記録する一方で、国内の貧困率は依然高く、都市部と地方部の経済格差は大きい。その格差は民族間にも見られ、メコン河沿いの平地に住む主要グループに比べ、北部山岳地域に居住する少数民族の貧困率は高く、教育格差とも連動する。特にへき地山間部の非ラオス語話者である少数民族児童は、生活言語と公教育で使用される学習言語が異なることや複式学級という運営体制が取り入れられることから、その学習環境は深刻な状態である。政府は全国民の質の高い公教育アクセスを目指しているが、へき地山間部の学校では少数民族児童にとって十分な学習環境を整備することは困難な状況である。以上から、へき地山間部において少数民族児童のラオス語習得・学習支援体制の整備を目指す本事業を実施する。
4. プロジェクト目標	対象地域における少数民族児童を取り巻く指導・学習環境が改善している
5. 対象地域	ルアンパバーン県 ムンゴイ郡及びポンサイ郡
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	【直接受益者】郡教育スポーツ局職員、同両郡 2 学校区に属する小学校教員 (約 100 名) 【間接受益者】児童、同両郡の村落教育開発委員会(以下、VEDC)、地域住民 (約 2,100 名)
7. 生み出すべきアウト プット及び活動	<アウトプット> 1.読書推進活動により、少数民族の児童が楽しみながらラオス語に触れる機会が増加する 2.ラオス語に不慣れな少数民族児童に対して、教員の効果的な学習支援を行う能力が向上する 3.対象小学校の保護者、教員、地域住民による上記の活動を継続するための児童の学習支援体制ができています <活動> 1 教員や地域コミュニティと協働し、児童が楽しくラオス語を学ぶための読書推進活動や子どもの居場所運営を行う 2.教員によるラオス語学習支援や複式学級運営の実践力向上に向けた活動を行う 3.児童の学習支援体制構築のため、VEDC 主導の教育開発計画の策定と実施の支援を行う
8. 実施期間	(西暦) 2024 年 6 月 ～ 2027 年 6 月 (3 年)
9. 事業費概算額	73,830 千円
10. 相手国側実施機関 (カウンターパート)	教育スポーツ省教員教育局、同一般教育局及び教育科学研究所、県スポーツ教育局、郡スポーツ教育局
Ⅱ. 団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (SVA)
2. 主な活動内容	1981 年に「曹洞宗ボランティア会」として、タイの難民キャンプで教育・文化支援活動を行うために設立。シャンティは、人びとの考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していくことを目指し、「共に学び、共に生きる」平和 (シャンティ) な社会の実現のために、アジアの 7 つの地域で子どもたちへの教育・支援を行う。